

どんな商店街？

中野駅前商店会は、JR山陽本線の安芸中野駅前に展開する商店街です。駅前の通りは旧西国街道で、会員は駅から東西約300mの範囲にお店を構えています。

周囲は主に昭和40年代から50年代にかけて造成された閑静な住宅地で、近隣住民が商店街の主なお客さんですが、安芸中野駅は中野地区だけでなく、安芸区畑賀、中野東、海田町砂走などの住民にとっても最寄駅で、1日約3,000人の乗降客が商店街を通過しています。

商店会の悩みは、商店街の夜道がとても暗いことでした。安心して安全に通行してもらえるかが心配です。そこで商店会は、駅前から明るくしようと平成13年から毎年11月上旬～12月下旬にかけて、クリスマスツリーの設置とイルミネーションを始めました。夕方以降暗くなった駅前に明かりが灯ることで、防犯や駅を利用する人々の癒しに役立てばというものです。今では冬の風物詩としてすっかり定着しました。

ある夏の日、商店街を歩いていたお年寄りが、暑さのあまり店の軒先で一休みして体調を整えているのを目にしました。こんなに暑くは熱中症になりかねません。ちゃんとした一休みをさせてあげられないかと思いました。そして、お店に気軽に立ち寄ることができるような場を作ることができれば、お年寄りだけでなく、通行人だった駅の乗降客ともコミュニケーションがとれ、来店のきっかけになるかもしれない、思いつきました。

そんな、地域のため、商店街のためになるぼんやりとした集いの場のイメージが浮かんでいた矢先に、安芸区役所の広報紙で「広島市商店街活性化事業費補助金」の募集を目にし、これだ！と大急ぎで商店会の仲間へ声をかけ、企画を練ったのでした。



「まよりんさいや」で笑顔を集める

中野駅前商店会

■いつまでも住み続けたい街を自分達で作る

1つ目の企画は、お年寄りや駅の乗降客に向けて、「寄って、このいすで休んでいってください。」と言える場所を作ること。

2つ目に、駅前とお店をライトアップし、地域ぐるみで安全を図ること。

3つ目は、一休みのためのいすを持ち寄り、明かりを灯した商店街でクリスマスコンサートを開くこと。

補助事業は採択され、いよいよ実施です。国際学院大学の地域デザインを専門とする教授や学生、椅子製作作家の協力を得て、「まよりんさいや!!」のロゴ入りの「よりんさいやのいす」を造りました。早速各店舗に設置してその場所を開放しました。ライトアップは、おしゃれなランタンを各店の軒下に吊下げる演出にしました。お店をたどって歩けば夜道も安心です。

クリスマスには、これまでのイルミネ



ションに、コンサートと会員の提供する飲食・体験ブースを加えてバージョンアップしたクリスマスイベントを開催しました。

取組によって住民との出会いや会話が増え、お店の売上げアップや新規顧客の獲得に繋がりました。何より会員は手ごたえを感じて充実し、商店会が活気づきました。

ここは、「ハートフルタウンなかの」

商店会は平成11年に「ハートフルタウンなかの」というキャッチフレーズを掲げました。商店会の取組は、自分達が年を取っても住み続けたいと思う、人が優しい、人に優しい街の理想を追いかけています。



■平成30年7月豪雨被災からの復活と飛躍！



着実に取り組んできた「まよりんさいや!!」のプロジェクトでしたが、不運にも豪雨で通りに土砂が押し寄せ、店内にまで浸水し、まよりんさいやのいすのほとんどが流されま

した。通りや店の復旧のために会員は皆踏ん張りましたが、再起を断念したお店も1軒ありました。

その後、商店会は中小企業庁が災害復旧のために設けた「商店街にぎわい創出事業」の補助金を活用し、盛大なクリスマスイベントを成功させました。商店会の完全復活と更なる飛躍で、暗く沈んだムードを吹き飛ばしたのです。